

令和元年（2019年）10月12日（土曜日）

県営用水環境整備



県がポケットパークを整備する大溝川＝三島市

県は11日、三島市の源兵衛川から続く「大溝川」と「松毛川」で2019年度、ポケットパークや遊歩道などの整備に着手すると発表した。

三島市の大溝川、松毛川 小公園、遊歩道など計画

県営地域用水環境整備事業の一環で計画し、費用は5億3400万円。同市と沼津市が対象で工期は25年度まで7年間。区間は中郷温水池から大溝川を通り、下流の松毛川に至る延長約1・7キロ。

大溝川はかつて農業排水路として県が整備した水路で、遊歩道やポケットパーク、転落防止柵などを整備する予定。地域活動の一環で、地元の保全活動組織が観賞植物の植栽なども計画している。

大溝川は元々狩野川の一部だったが、昭和初期の堤防工事で本川から分離され、三日月形の止水域となつた。県は「富士山南麓に広がる三島市は水の都」と呼ばれ、富士山の湧水に潤う街。16年度に「世界かんがい施設遺産」となった三島駅南

口にある源兵衛川は、県内外から多くの人が訪れる水の都の中心的なスポットで知られている。今回の整備により、三島駅南口から狩野川まで、水路沿いの田園風景を楽しみながら散策することが可能になる」としている。